

図画工作

図画工作科では、育成を目指す資質・能力を育むため、児童が表したい思いを大切にしながら「つくり、つくりかえ、つくる」という学習過程を通して、児童が次々に試したり、再構成をしたり、考えや方法を変えたりできるよう授業を構成することが重要です。

図画工作科の授業づくりのポイント

- 「つくり、つくりかえ、つくる」という学習過程の一層の充実
- 共同してつくりだす造形遊びの充実

□ 「つくり、つくりかえ、つくる」という学習過程の一層の充実

「つくり、つくりかえ、つくる」という学習過程においては、児童は「前につくったもの」と「今つくりつつあるもの」の間を行きつ戻りつしたり、再構成したり、うまくいかないときには考え方や方法を変えたりして実現したい思いを大切に活動していることから、教師による指導に生かす観察や個別指導、問いかけが重要になります。

つくり

<表したい思いや願いをもつ>



児童：「切った木を次は、どこに置こうかな」



教師：「〇〇さんは、どんな形を表したいのかな？」

つくりかえ

<どのように表すかを考える>

児童：「切った木どうしをつなげたり、入れ替えたりしたらどんな形になるかな？
ずらして、階段みたくしようかな？」



教師：「〇〇さんは、なぜここに階段をつくらうとしたのかな？」

つくる

<さらに工夫して表すことを考える>

児童：「細い部品を付けて、表したい形をわかりやすくしてみよう！」

教師：「〇〇さんは……を工夫して、表したい形を表現したのですね。」

本事例の具体は、こちらの二次元コードから御覧ください。

「令和3年度小学校教育課程編成の手引」



「つくり、つくりかえ、つくる」ことを通して、自分のしたことでも何かが起こり、できたことに驚いたり、意味付けしたりする中で、表現の欲求と結び付け、自分の思いや願いを表すことの楽しさや喜びを味わい、さらに工夫して表しながらつくる姿勢を育むことが大切です。

□ 共同してつくりだす造形遊びの充実

「学習指導要領解説図画工作編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い」において、(5)共同してつくり出す活動を参考に、一人一人の感じ方やイメージを交流し、友だちの表し方や感じ方のよさや違いに気付くよう指導することが大切です。



共同してつくりだす造形遊びの経験を踏まえて「主題を生み出す力」との接続を図る

対象や自分の行為などに対して、自分なりのイメージをもち、伝えることができるようにする

小学校では、児童が材料などに進んで働きかけ、自分や友だちのよさに気付く活動を行う

幼児期の遊びでは、自分のやりたいことを見つけ楽しみながら友だちと自由につくり遊ぶ

発達
の
段階

共同してつくりだす造形遊びにおいては、自分の思いを具体化するために、材料や場所、空間などに進んで働きかけ、自分の感覚や行為を通して捉えた形の色などのイメージをもち、思いのままに発想や構想を繰り返す、技能を働かせ、自分の役割を考えさせることが大切です。